

全国学校事故・事件を語る会 16回目の大集会に向けて
(エピソード募集のお願い)

8月26日(土)～27日(日)実施予定の「第16回目の大集会」が、いよいよ2週間後に迫ってまいりました。

さて、このたびの大集会では全体テーマ「学校事故・事件の遺族・被害者が望む事後対応」というテーマのもと、基調提案及び1日目午後・夜・2日目午前の3つの学習会が開かれます。

そこで本日、世話人(事務局)が集まり、学習会等の運営方法等を検討するなかで、この基調提案及び3つの学習会においては、「あらためていま一度、当事者の『被害』とは何か?」を、具体的なエピソードを通して見つめ直してみようということになりました。

特に、「このたびの大集会では、みなさんが持ち寄ったエピソードをもとに『被害』の内容を整理・集約し、事後対応のプロセスで求められる被害者支援のあり方を具体的に検討した上で、文部科学省への要望書提出などに役立てていきたいと考えています。」

つきましては下記の内容に即しまして、みなさんからのエピソードを大集会に寄せていただければ幸いです。ご協力をよろしくお願いいたします。

1：当日参加を予定されている方は、事故・事件発生直後からのご自身の体験をふりかえって、次のようなエピソードをいくつか思い出して、メモなどをしておいてください。

- ① 「このことが衝撃的で、深く傷ついた」という出来事。
- ② 「このことは許せない、納得できない」という出来事。
- ③ 「このことがあった以後、自分や家族の生活にさまざまな支障が出た」という出来事。
- ④ その他「これこそ、自分の受けた被害だ」と思われる出来事。

2：なお、エピソードをメモする際には、なるべく次のことがわかるようにしてください。

- ① 事故・事件発生直後からどのくらいの時期か？(たとえば発生から「1か月くらい」「1年くらい」「3年くらい」など)
- ② 誰との関係のなかで生じたことか？(たとえば学校や教育行政の関係者、他の保護者や地域の人々、調査委員会などの研究者・専門職、その他)
- ③ どのくらいの衝撃度(支障の度合い、納得できない度合い)だったのか？(たとえば「数日眠れないほど」「しばらく声がでないくらいつらかった」「二度と顔も見たくない」「買い物に出るのも困難」など)

3：当日参加できない方で、何か自分のエピソードを使ってほしいという方は、上記の内容をメモした上で、下記までご連絡ください。

代表世話人 内海 千春 (うつみ ちはる)

TEL/FAX 0791-66-1108 E-mail HQC00120@nifty.com

以上